猿新聞

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

第三回 モンキードッグ倶楽部総会

第三回モンキードッグ倶楽部総会が、４月23日名張市防災研修センターにおいて開催。

各自治会長、名張市農林資源室長が臨席され、昨年度の反省と25年度の活動方針を確認し、盛大裡に閉会しております。

写真＝総会風景

伊賀市サル群 名張Ａ群エリアに！

先日、獣害対策指南員さんからの報告で、伊賀地区エリアの群れが長瀬地区（名張Ａ群エリア）に浸入し、農作物に被害をあたえたということがわかりました。名張Ａ群の留守中の空き巣行為だと思います。ニホンザルの群れはメスの血縁集団であり、その土地に結びつきを持った地縁集団でもあると思います。その遊動域は保守的で、長いこと変わらないのが普通だと思います。しかしときには従来の遊動域を外れて遊動することもあるようです。

群れでの競合は食べ物が不足したときなどに集団内で大喧嘩が起こります。

エリア内の飢饉状態が続き群れの全員に食べものが行き渡らなければ他の群れに浸入し、「空き巣狙い」的行動をすることも考えられます。

緩衝帯整備で人と獣の棲み分けを！

野生鳥獣による被害地域は、年々広域化しており、農業者の生産意欲の減退や耕作放棄地の増加等が問題となっています。

過疎化や高齢化の影響により、放置された里山林が多く見られるようになり野生動物の生息域と人里の境がなくなってきています。

いま、新たな獣害対策として、緩衝帯設置事業が全国的に行われていて大きな効果を上げている地域もあります。

農地に隣接する里山との境界を帯状に樹木等を伐採することで、野生動物が出没しにくく、追い払いなどを行いやすくするために、緩衝帯は大きな効果がありますが、人と獣の棲み分けを目的にした緩衝帯でなければなりません。これをどのように整備・管理するのかが課題となります。

最近、竹林の伐採整備を行われましたが、所有者や地域がその後の管理を継続して行う事例が少なく、翌年には再び荒れ始めています。

この問題は、緩衝帯整備にもつながる大きな検証課題です。

緩衝帯整備には、木の伐採という危険な作業が伴うので、しっかりとした技術と安全対策が必要ですが、昔は山間地域の人たちは森の木を伐って生活していたのですから解決出来る問題だと思います。

緩衝帯整備により伐採木が多く発生しますが、昨今、薪ストーブ愛好家が増えており、木や薪が欲しいという人が増えています。これらを上手くマッチングさせることができれば、緩衝帯整備も進展していくように思います。

なにはともあれ、この事業推進には行政の強い指導と助成が必要なことはいうまでもありません。

緩衝帯整備とあわせて野生鳥獣を誘引する原因を取り除き、日々の追い払いを地道に行うことが、被害を受けにくい地域を創ることが出来るということも忘れないでほしいと思います。

写真左＝上三谷地区で。
写真右＝伊賀竜口地区で。

目隠し栽培

サルの臭覚は人間程度で、目で直接確認できる農作物に被害をおよぼすことが多いです。

そこで、トマトやイチゴなどは、防護柵の外周から見えにくい内側で栽培しましょう。

柵の周りにはゴーヤなど比較的好まない作物で畑の中を見えにくくすることも一考です。

自家用菜園など多品目で栽培している畑では、インゲン、ソラマメ、エンドウなどのツルを伸ばす野菜を、畑の周囲ではなく中央部に植えるように計画して下さい。

防護柵の周囲に植えた場合は、ツルが柵外に伸びるため、手を出します。

サツマイモやジャガイモは竹のマルチ栽培が今はやっています。

地表に竹を少し隙間を空けて並べて固定して、その隙間からサツマイモの苗を挿したり、マルチの下にジャガイモの種芋を植える方法です。

カボチャなどツルものなどは、立体的に栽培しましょう。狭い畑でも外にツルがはみ出すことなく栽培でき、防護柵で囲みやすくなります。

果樹などは低木栽培を心がけましょう。樹を低く仕立てることで、作業もしやすく、防護柵で囲いやすくもなります。

納屋などに貯蔵してある農作物でも見つけるとあらゆる手段を講じて浸入してきます。

ガラスごしに見えるようなところは要注意！。

名張 AB群個体数 横ばい状態

名張ABとも、ここ数年横ばい状態です。

25年度は個体調査は行っていませんが、現状は23年度調査と大差なく推移していると思われます。

ニホンザルは春から夏が出産期ですので、今の時期アカンボウが増えていると思います。

23年度個体調査結果
近畿中国四国
農業研究センター
山田　彩　氏

名張Ａ群
オトナ・ワカモノ
オス…２頭
オトナ・ワカモノ
メス…16頭
コドモ…14頭
アカンボウ…６頭

名張Ｂ群
オトナ・ワカモノ
オス…８頭
オトナ・ワカモノ
メス…18頭
コドモ…17頭
アカンボウ…11頭

５年間にわたるカウント調査の結果から、農作物加害群の繁殖率は純野生群のそれに比べて非常に高く餌付け群に近いものであることがわかった。

サルの出没状況
名張Ａ・Ｂ群

指南員報告

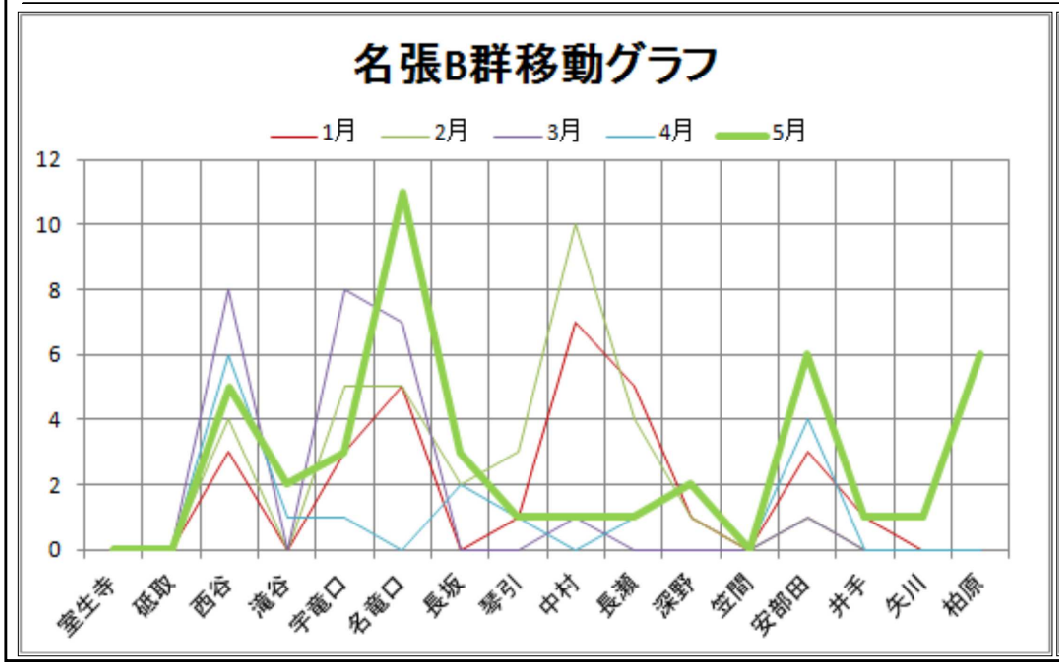
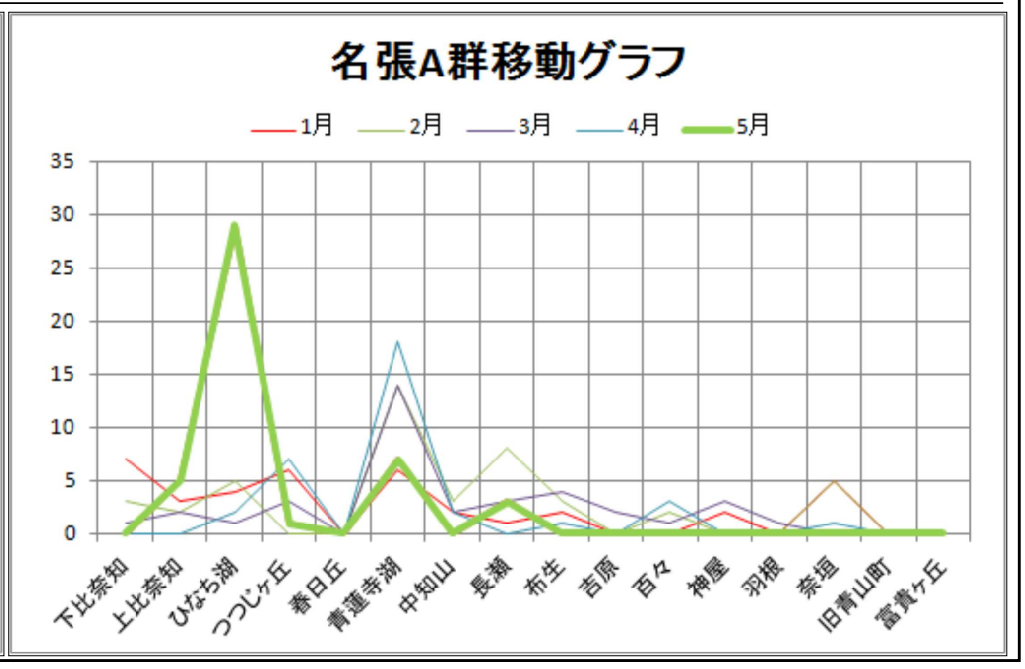
５月の動向。

Ａ群は、移動範囲は青蓮寺湖と、ひなち湖周辺に集中し、ダム周辺の木の新芽を食べている。

特にひなち湖周辺のニセアカシアの花に群がっている。

そのため農家の農作物の被害の報告が少ない。

Ｂ群は殆どの集落、地域に出没していて、タマネギの被害の報告が聞かれる。これから、タマネギ、ジャガイモ、エンドウ等の収穫時期になるので農家の人々は被害の拡大を心配している。

ハナレザルが夏見、赤坂、柏原、矢川、四季が丘、坂ノ下、井手、三本松、西谷の周辺に、１～２頭出没して、住民から農作物の被害の報告が聞かれる。

★サル被害は、夏野菜収穫期から秋の柿の実の熟れる頃までが最も心配され、注意しなければならない時期です。